

# 農林水産業のフィールドで「現場の声」にこたえる。 それが私たち農林中央金庫のCSR活動の基本です。



CSR担当理事  
松本 浩志

## きっかけは地方支店の 「花いっぱい運動」

**Q** 農林中央金庫のCSR活動は、  
どのようなきっかけでスタートし  
たのでしょうか。

まだ「CSR」という言葉がなかった時代ですが、昭和38年に盛岡支店が行っていた公園への花や苗木の寄贈を通じた環境美化・緑化活動が（社）日本花いっぱい協会主催の「職場花いっぱいコンクール」で全国優秀賞に選ばれました。これが「花い

っぱい運動」の原点であり、いまでいえば、ステークホルダーとしての地域社会、個人のお客さまを意識した取組みであったと思います。それが次第に評判を呼び、静かな広がりを見せました。

**Q** 「花いっぱい運動」の  
スタートですね。

ええ、金庫らしい意義のある取組みといえる内容でしたので、昭和40年代には、「街にみどり窓辺に花を」をキャッチフレーズに全国の本支店にもこの取組みを広げた結果、当金庫ならではの「花いっぱい運動」として知られるようになりました。昨年度は、全国32の支店・事務所等でチューリップの球根、花の種、苗木の配布・寄贈活動をしており、対象先も地方公共団体、小・中学校、養護学校など広範囲にわたっています。もともと支店では地域と触れ合う独自の活動が活発で、具体的な取組み事例を申しあげれば、バス停に立ってバスを待つ乗客のためのベンチ寄贈をはじめ、小学生のためのランドセルカバー、図書袋や車椅子の寄贈など、いまま続々さまざまな活動があります。いずれもきっかけは、地域のみなさまのお手伝い

をしたい、喜んでいただきたいという気持ちから始めたものです。なかでも「花いっぱい運動」は、1支店からスタートして全国へと広がっていったわけですが、いま振り返ると当金庫のCSRの根っ子となる活動であったと感じています。

## 創立80周年を機に 「森林再生基金 (FRONT80)」に着手

**Q** 農林中央金庫といえば、  
平成17年3月から始めた「森林再生基金(FRONT80)」が注目を  
集めています。

平成15年に創立80周年を迎え、「農林中央金庫は社会に何を還元できるのか」をテーマに役員からアイデアを募集したところ、そのなかの一つに「森林再生」がありました。農林水産業に関連し、かつ地球環境保護にもつながる大きなテーマであり、当金庫の記念事業としてふさわしいということで組織として取り組んでいくこととなったわけです。

**Q** 改めてCSR活動を考えるよい契機になったとうかがっています。

CSRという概念が急速に社会に浸透するなか、当金庫でも活発な議論を重ねてきました。当金庫は農林中央金庫法第一条で「農林水産業の発展に寄与」することを目的に設立された協同組合の組織です。協同組合組織は「自助」と「相互扶助」を通じて公正な社会の実現を図るという基本理念を持っています。この理念のもとに行ってきた本来業務そのものが社会的責任を果たすこと＝CSR活動であるという思いもありましたので、これまでは特別にCSRを強く意識したような取り組みは行ってきませんでした。「森林再生基金(FRONT80)」の設立は、「農林水産業」というフィールドで、当金庫だからこそできるCSR活動があると気付かせてくれました。

**Q** 森林再生についても、独自の視点で取り組まれています。

日常業務から見える現在の林業の問題点や課題——具体的には、林業の低迷と林業家の高齢化に伴い戦後に植林した人工林が放置されている現状や、京都議定書におけるCO<sub>2</sub>削減に果たす森林の重要性——などを念頭に、現場の視点で支援を実施してきました。本来業務ではできない切り口で農林水産業に貢献する、そこそが当金庫のCSR活動だと再確認できたことが、本格的な

CSR活動、ひいては平成19年度からの「JAバンクアグリサポート事業」へとつながりました。

## 農林水産業の現場から、社会に貢献する

**Q** 「JAバンクアグリサポート事業」は、農業従事者への貢献に加え、子どもたちや社会全般を対象とする広がりのある活動ですね。

当金庫も含めJAバンクが一体となって推進する「JAバンクアグリサポート事業」は、①農業の担い手に対する支援である利子助成、および農業法人に対する投資育成事業、②子どもたちに食と農業の重要性を伝えるJAバンク食農教育応援事業、③農業への理解・関心を高めるための食と地域の文化発信事業を三本柱としています。融資等の本来業務から一歩踏み出して、より自由に農業の可能性を切り開く支援を目指しています。

当金庫はCSR活動における三本柱として、①出資者への貢献、②農林水産業振興への貢献、③社会への貢献を掲げています。なぜなら、出資者の多くを占めるJA、JF(漁協)、森林組合の基盤である農林水産業に従事する方々への支援が、各地域の経済や環境、ひいては国民のみなさまの幸せにも結び付いていくものと確信しているからです。

**Q** 今後のCSR活動において重要視される点を教えてください。

当金庫は機関投資家としても知られており、その業務は国内のみならずグローバルに展開しています。しかし、当金庫のすべての活動は農林水産業の発展を目的とするものであり、本来業務とCSR活動が限りなく密接につながっていることを当金庫の役員には常に意識してほしいと思っています。

一方で、当金庫以上にJA、JF(漁協)、森林組合のみなさまは各地域で独自性の高い貢献活動を長年にわたり実践し、経験を重ねています。当金庫は全国47都道府県の現場の声にアンテナを張り巡らせながら、「いま本場に求められているニーズとは何か」を考え続け、柔軟かつ機動的にCSR活動を実践していくことが大切だと認識しています。

当金庫のCSR活動は、新たな展開をスタートしたところです。CSR活動で重要なのは、まず継続すること。そして、理想に走りすぎず、真に社会に役立つ活動を実践することだと考えています。本報告書にはそうした当金庫の思いを込めたつもりですので、ぜひともじっくりご覧いただき、ご理解をいただければと思います。



札幌支店が寄贈したチューリップの開花